

高温に伴う農作物等の技術対策

令和7年4月25日
南筑後普及指導センター

【共通事項】

暑熱環境下で作業を行う場合は、熱中症対策として、長時間の作業を避け、こまめな水分と塩分の補給や休憩を取るように心掛ける。

また、高齢者は、のどの渇きや暑さを感じにくく、知らず知らずのうちに熱中症にかかりやすいことから、単独作業にならないよう定期的に異常がないか巡回や声かけを行うなど、効果的な注意喚起を行う。

【野 菜】

○高温の影響

- ・高温による生理障害や品質低下、乾燥による害虫の多発が予想される。また、施設果菜類では着果不良や乾燥によるチップバーン、尻腐れ果等が発生するおそれがある。

○高温対策

<共通>

- ・少量多回数のかん水に努め、土壌や育苗中の培土の過乾燥を防ぐ。
- ・ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等の病害虫は少発生のうちに防除する。
- ・乾燥によるカルシウム欠乏等の生理障害対策として、必要に応じて葉面散布を行う。
- ・果菜類では、不良果は早めに摘果して着果負担の軽減を図るとともに、適切な施肥により樹勢維持に努める。

<施設野菜>

- ・ハウスの妻面やサイド部、肩部をできるだけ大きく開放して換気に努め、ハウス内の温度上昇を抑える。
- ・換気扇や循環扇を活用して強制換気を図る。
ただし、急激に換気すると湿度の急低下による萎れが発生しやすいので注意する。
- ・ハウスの天井面を寒冷紗等で遮光し、施設内温度の上昇を抑える。

<露地野菜>

- ・乾燥が続く場合は、敷ワラ等でうね面を被覆し、可能であれば、こまめなかん水を行う。
- ・露地果菜類は、水量が確保できれば畝間かん水を行うが、水量が限られる場合は株元に手かん水を行う。

【果 樹】

- ・施設栽培では、極端な高温が日焼け果や葉焼け等の発生を助長するため、ハウスの天窓、妻面、谷部、サイド部の換気を行い、施設内の温度上昇を抑える。

- ・高温により樹体や土壌からの蒸散量が多くなるため、敷わら、敷草等により、土壌水分の蒸発を極力抑制しつつ、こまめなかん水を実施する。
- ・果実の日焼けが発生しやすい園地では、各種資材による遮光等の対策を行う。
- ・収穫期を迎える園地で、高温により着色遅延の恐れがある場合は、果実品質を確認し、過熟とならないよう、適期収穫に努める。
- ・露地栽培のイチジク等では、生育初期で枝葉が短く主枝や主幹部に直射日光が当たる場合は、陽光面にホワイトンパウダーなど塗布し、樹体温の上昇を防ぎ、日焼け症状による損傷を防ぐ。
- ・高温乾燥時に発生しやすいハダニ類については、発生動向に十分注意し、発生初期からの薬剤防除を実施する。

【花 き】

- ・施設花きでは、高温による軟弱化、葉や花卉等の焼け、養分の消耗等が懸念されるので、妻面・サイド部を開放し、天窓の開閉や循環扇等を活用して換気を十分行うとともに、天井を寒冷紗等で被覆し、施設内の温度上昇を抑える。
- ・切り花は、朝・夕の気温の低い時間に採花し、長時間放置しない。また、採花後は前処理剤を使用し、エチレン等による劣化を防ぎ、品質の維持に努める。

【畜 産】

○急激に気温が上昇する影響

- ・急激に気温が上昇すると家畜は体温を一定以下に保つために呼吸数を増やし、飼料摂取量を減少させるため、乳量減少、乳成分率の低下、増体量の減少、産卵率の低下および受胎率の低下が発生する。

○高温対策

- ・体温の上昇を防止するため、屋根散水、屋根への消石灰の塗布、屋根裏・壁・床への断熱材の設置、送風による換気あるいは寒冷紗やよしずによる日除け等により畜舎環境の改善に努め、畜舎内の温度の低下を図る。
- ・飼養密度の緩和、換気扇や扇風機による畜体等への送風や散水・散霧を行い、家畜の体感温度の低下に努める。
- ・大家畜に対しては、消化性が良く第一胃内での発酵熱の発生が少ない良質粗飼料の給与、給与回数の増加、粗飼料の切断長の短縮などが効果的である。
- ・飼料は、涼しい時間帯（早朝あるいは夜間）に給与し、新鮮で冷たい水を常時、十分飲めるようにする。
- ・ミネラル、ビタミン、生菌剤等は通常期より増給する。
- ・観察の頻度を増加させ、健康悪化の兆候がないか等、家畜の健康状態をよく把握し、快適性に配慮した飼養管理に努める。